

# おぼろげな「らいてう」の会ニュース

発行  
平塚らいてうの会  
〒151-0051  
東京都渋谷区  
千駄ヶ谷  
4-11-9-303  
TEL・FAX  
03-3401-6383

## 錦秋のびわ湖畔でつどいひろく 築添正生さんが語る 「祖父博史と祖母らいてう」

今年、「家」の展示で好評だったのが「らいてうと博史―愛と平和の五〇年」でした。「博史こそ新しい男だった」「らいてうへの誤解が解けた」「目からウロコ」などの声が寄せられています。上海で描いた『魯迅臨終の図』（油彩）のカラー写真や工芸史上にのこる指環の数々も話題になりました。

そこで、らいてうのお孫さんでやはり金属工芸家の築添正生さん（大津市在住）に「博史とらいてう」を語っていただく企画を立てました。11月に「家」が冬季休館に入ってから展示パネルを運び、米田館長のお話も添えて、大津市びわ湖畔の「ピアザ淡海」で11月15日（土）12時半から開催します。なかなか「家」にこられない関西方面の方にも参加していただきたいと計画しました。もちろん全国からのみなさんもどうぞ。詳しくは案内チラシを（申し込みは先着順）。  
築添さんのご紹介は四面に。

### 多彩な団体訪問も

### 「らいてうの家」は大盛況

今年、さまざまな団体が「家」を訪問してくださるようになりました。日本女子大桜楓会の山梨や川越支部、塩尻市、中野市、山ノ内町など長野県内各地の女性団体などに加えて、静岡や新潟から治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟のみなさ



ベランダで話しあう新建築技術者集団のみなさん

ん、労働組合の方がた、信州大学歴史ゼミのみなさんや総合女性史研究会の役員さんたち、地元上田をはじめ山梨や小田原から九条の会のメンバー、新建築技術者集団は京都からの参加を含めて専門家の立場から、そして「家」建設以来今も支えてくださるレイラ化粧品品の全国販社の方たちなどです（2―3面に紹介）。男性の訪問も増えています。

また、今年は何人ものアーティストのコンサートもあり（「らいてうの家通信11号」参照）、目がまわるほど忙しく、でも充実した夏でした。

### 運営は「火の車」―「これからを考える」プロジェクトチーム発足

とはいうものの、「家」の運営経費も「会」自体の財政も赤字を抱えて先の見通しは立っていません。個人に過重な負担がかかっている「持ち出しボランティア」には限界があり、このままでは「家」を開けられなくなる？という危機感もあって、このほど「会活動と『家』のこれからを検討するプロジェクト」を発足させました（責任者米田会長）。平凡ですが、NPO活動の源泉は会費と寄付以外にありません。どうかこころあるみなさまのお力添えをお願い申し上げます。  
（文責・米田佐代子）

### 秋のあずまや高原へどうぞ

今年の「家」は11月3日まで開館しています。高原は季節的にもこれからが最高です。どうぞおさそいあわせていらして下さい。

# 「家」はアーテイストで大賑わいの夏でした

7月20日、女性講師・真打第1号で知られる宝井琴桜さんを「家」にお迎えしました。

午前中「家」の小さなホールは、障子をバックに大きな緋毛氈の演台をはずしたり、ホールにも2階ロフトにもお客様用の座布団をぎっしり敷いたりして準備に大わらわ。その最中に、はやくも来客がぞくぞくとお見えになりました。

期待の高まる中、琴桜さんをお迎えして「平塚らいてう」の始まりです。ら

## 宝井琴桜さん 熱演 講談・「博史とらいてう」



講師・宝井琴桜さんと、「博史とらいてう」に聴き入るみなさんたち↓



いてうさんの長い一生をどう口演するのかしらと思っていました。机を叩く扇の音も調子よく、生い立ちから博史との出会いもまじえながら、所要所をおさえ、時には笑わせながらの迫力ある大熱演でした。

▽

翌日、琴桜さんは米田館長たちとともに上田市で開催された、地域づくりネットワーク上小地区協主催の地域交流会にも参加。地元「信州民報」に「講師・宝井琴桜さんが幕末、加賀藩で起こった「米騒動」で活躍した、おほかの声合わせ」を語りながら「黙っていたら損をする」とボラunteiアで活動する団体にエールを送った」と紹介されました。

中川美保さんのサククスコンサート

7月28日、昨年につづいて中川美保さんのサクソフォンコンサートが開かれました。大河内昭子さんから寄付された電子ピアノがこの日、ピアニストによるお披露目をしました。

中澤きみ子さんヴァイオリンコンサート

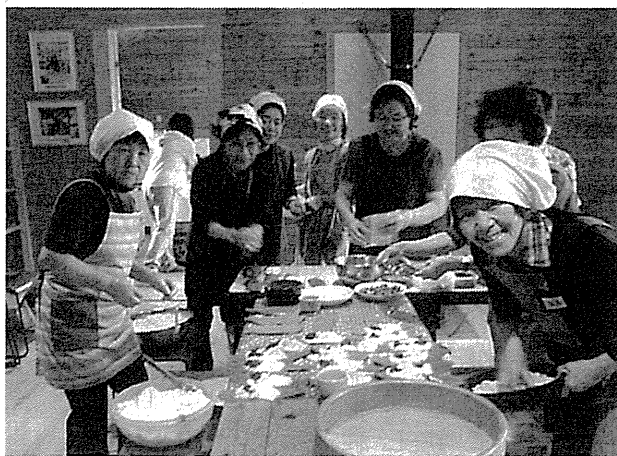
8月10日は、ウイーンを拠点に活躍中のバイオリンリストの中澤きみ子さんから、この日だけ空いているとのお申し出があり、素晴らしい演奏会になりました。ストラディバリウスの伴奏で全員「赤とんぼ」の合唱というおまけまでつきました。

笹刈りとバーベキューを楽しみました

らいてうの森は、この春植えた栗、キハダ、ブナの苗木が笹に埋もれ、この2年間に植えた

ころも笹でいっぱい。8月24日雨天の中笹刈りを実行しました。地元の専門家をお願いし、子ども連れや世界青年友の会のみなさんの応援もあって無事終了。「家」に戻り、真田・上田の会員が腕によりをかけたバーベキューでお昼を楽しみました。地元青年の太鼓と踊りに、ちびっ子たちも大喜びでした。

### 郷土料理と源氏物語講座ひらく



9月13日

には午前中葉草園で、真田らいてうの会のみなさんによる、郷土料理「笹寿司と鬼かけうどん」を楽しむ会があり、前日から用意した手打ちうどんや山から採りたての笹の葉にのせたおすしに、地元から「食べたい」と大勢参加。午後からは「家」で、宮島満里子さんを講師に、おなじみの「源氏物語」講座がひらかれ、「千年昔の女性が問うジェンダーの視点」というユニークなお話に一同共感。充実した一日でした。

# 友あり 遠方からも、近くからも

## 「はじめて勉強した慰安婦問題」

### 吉川春子さんを囲んで

8月28日、元国会議員で「慰安婦問題」に取り組んできた吉川春子さん（丸子出身）が訪問されました。うわさを聞いて地元上田・真田だけでなく、長野、須坂、蓼科など県内各地から二十数人も集まり、たちまち「慰安婦問題」の勉強会がはじまりました。「処女キョウシュツって知っていますか？教室ではなくて供出ですよ」という説明には驚きの声。「慰安婦問題はへかわいそうなアジアの女性」の問題ではなく、女性みんなの人權問題」というお話しにうなずいたひととまでした。



吉川春子さんを囲んで勉強会に

## 「専門家がいてもすごい」―新建と「猿」が交流

8月31日訪問の新建築技術者集団のみなさんは、設計監理にあたった「女性九人衆」こと「猿」のメンバー4人による、パワーポイントを使って

の説明を聞いていただきました。「県産材を、それも地元で自分たちが調達して支給する」方式にしたというところでは「そんな無茶な」というため息も。でもそれをやり遂げたあかしの「家」をみて「すばらしい」の連発でした。専門家にほめてもらって「家」もうれしかったことでしょう。

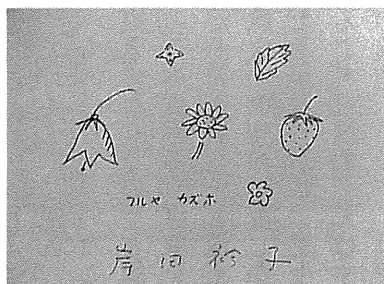
## 美と平和のかけ橋「レイラ」のみなさん

私たちがいつもお世話になっているレイラ化粧品の方々が、9月2〜3日とハードな会議を終えて、全国から参加された20人が「家」の見学にこられました。家に入っすぐ目に付く「雷鳥親子」の写真（レイラから寄贈）に感激。館長の展示説明を聞き、さわやかな高原の風に疲れも吹き飛んだ、と元気に各地に帰られました。

## 岸田さん・古矢さんのサイン入り絵本が評判に

8月23日、上田市情報プラザでの岸田裕子さん・古矢一穂さんのサロントークは会場ぎっしりの盛況でした。会場には原画のほか、お二人が時間をかけて書いてくださった素敵なサイン入りの絵本も展示され、「ほしい！」

の声が殺到して実行委員会は応対に追われました。お心遣いに感謝いっぱいです。



## 「紀要」創刊号が完成しました

「家」オープン後、新しい資料の発見や様々な証言などを記録にとどめたい。また、意外に実像が知られていないらいてうの研究、ゆかりの人々の掘り起こしや「今、らいてうの志をどう受け継ぐか」などの議論を活発にしたいの思いから計画した「紀要」がこのほど出来上がりました。

1冊 700円。お申し込みはらいてうの会へ

## 山田洋次監督のお話と「母べえ」上映のお知らせ

日時 11月13日（木）午後1時〜4時半

会場 日本女子大学成瀬記念講堂

参加費 2000円（前売り1800円）

\*お問い合わせはらいてうの会へ

## 閉館準備のお知らせ

今年の「家」は11月3日（月）で冬季休館します。床磨きと「反省会」を、4日（火）〜5日（水）にやる予定です。都合のつく方ご参加ください。

## 10月の森のめぐみ講座

10月18日（土）13:00〜15:00

講演と観察「自然における共生〜植物、動物、菌類」

講師 徳増 征二さん（筑波大教授）

場所 菅平 筑波大学実験農場

10月19日（日）

9:00〜11:00 菅平自然観察ウォーキング

12:00〜13:00 きのご鍋交流会

13:00〜15:00 りいてうの家見学、薬草園など散策

## びわ湖のほじりから

— 築添正生さんのプロフィール

米田佐代子

11月15日大津市で、「祖父博史と祖母らいてう」のお話をしていただく築添正生さんは、らいてうの長女築添曙生さんのご子息です。博史さんと同じように銀を中心にした金属工芸家として知られています。「らいてうの家」には博史さんの指環とともに正生さんの指環も展示され、わたしも「元始女性は大陽であった」の「私の白鳩の黒い目が、薄絹の膜に蔽われて安らかに眠る」という一節を連想させるような、不思議な雰囲気銀のブローチを秘蔵しています。

正生さんが生まれたのは1944年12月、日本の敗色濃いころでした。母の曙生さんがらいてう疎開先の茨城県で出産、翌年四月本郷曙町の平塚家に戻ろうとしたその日に家は空襲で焼け落ちて



↑個展の時にご家族と一緒に。右から2人目築添さん。右は築添さん作品のブローチ（米田さん提供）



しまいました。母子は都内の知人宅に避難、そこも空襲され、正生さんは毛布にくるまれて焼夷弾の降る中を逃げまわったそうです。戦後日本国憲法を読んだらいてうが、「戦争放棄」に強く共感した背景にはこうした体験もあったかもしれせん。

正生さんは祖父の影響で「ものごころついたころから、大人になったら絵描きになりたい」と思っていたそうです。子どもころ成城の奥村家を訪ねた時の思い出は、祖父がその姿を愛して植えただざくろの木と「祖父の古風なアトリエの少しかびくさいような空気」だったとか。しかし、正生さんが作品を発表しはじめるころ、博史さんはすでに亡き人でした。祖父への追憶のまなざしはやがて「奥村博史再考」へと向かい、「祖父奥村博史」についての文章を雑誌『虚無思想研究』に連載、同時代を生きた辻潤などについても深い洞察をしておられます。新展示「らいてうと博史―愛と平和の五〇年」は、これらの論稿にヒントを得た部分が少なくありません。

正生さんはまた「晩年の祖母は、せいぜい一合くらいのお酒がすきで、そんな時顔を出すと『ちよつとつきあつてよ』と勧めてくれ、盃二―三杯位の酒をつきあつた」こともあり、「庭の木や花をながめながら、ふたりでお酒を飲んでいた場面を思い出すと、それは多くの人に知られた『平塚らいてう』ではなく奥村明（はる）というおばあちゃんの記憶」だったと書いておられます（京都新聞1986年6月10日付参照）。当日はどんな思い出を語ってくださるでしょうか。作品もお目にかける予定です。お楽しみに。

### 「事務局日誌」

- 7月3日 事務局会議
- 7月9日 第2回理事會開催
- 7月18日 全国女性建築士の会で猿「女性9人衆」が「らいてうの家」建設経過発表
- 7月20日 らいてう講座Ⅱ、宝井琴桜さんの講談「博史とらいてう」
- 7月25日 紀要創刊号完成
- 7月26日 日本母親大会（愛知）分科会、米田会長講師として参加
- 7月28日 中川美保さんサクソフォンコンサート
- 8月3日 あずまや高原自治会懇親會（あずまや高原ホテル）に出席
- 8月10日 中澤さみ子さんヴァイオリンコンサート
- 8月23日 岸田裕子さん、古矢一穂さんのサロントーク（上田情報ライブラリー）
- 8月24日 森のめぐみ講座2「笹刈りとバーベキュー」
- 9月5日 〃会と「家」の今後について〃第1回プロジェクト會議
- 9月7日 「らいてうの家」通信11号発行
- 9月9日 第2回常任理事會
- 9月11日 記録映画を上映する會理事會に出席
- 9月13日 午前Ⅱ郷土料理（薬草園）、午後Ⅱ源氏物語講座 宮島満里子さん「家」
- 9月20日 らいてう講座Ⅲ「らいてうと国際民婦連・母親運動」堀江ゆりさん、木村康子さん